

ティーチング・ステートメント

商学部商学科

津山 智行

作成日 2023年3月19日

【責任】

商学部商学科に所属する教員として、金融論、経済学基礎、経済学 2、経済政策論を担当している。ゼミナールは、2024 年度から担当する予定であり、「金融、金融ビジネス」をテーマといたしたい。

【理念】

30年間のビジネスマンとしての経験から、社会に出て必要なことは「有言実行」であると考えている。すなわち、「自分で施策やビジネスを企画立案して、組織に採用させ、自分を中心になって実行し、成功させる。」ことである。最初は小さいことからでもよいので成功体験を積み重ねることにより、それが仕事の面白さややりがいに繋がり、次第に大きな仕事へと挑戦していけるようになる。長い人生において仕事に費やす時間がかかりの部分占めるため、仕事で自己実現し社会に貢献していくことが、豊かな人生に繋がっていくものと考えている。そこで、大学時代には、社会に出て「有言実行」を行うことができる土台となる能力を養っておくことが重要である。

【方針・方法】

「有言実行」を行うためには、「アイデアを生み出す力」「考える力（論理構築力）」「メンバーと協力して遂行する力」の3つの能力が不可欠であり、その力の土台を養成することを方針とする。

方針1 「アイデアを生み出す力」を養成する

1. ゼミナールや授業で「アイデアを創出するヒント」を講義する。
(人間の脳とアイデア創出、商品開発者の体験的方法論、アイデア創出のステップ、メモの重要性など)
2. 商品開発の特集番組などを視聴してもらい、商品開発の実情やプロセスについて理解を深めてもらう。
3. ゼミナールでのグループワークによりアイデアを出し合い、一つのコンセプトを作り上げる練習をする。

方針2 「考える力（論理構築力）」を養成する

1. まずは正確な知識を修得することが出発点となるので、毎回の授業後に小テストを行って知識の定着を図る。
2. 今問題となっている経済トピックについて、なぜそうなるのかを考えさせて、経済学的な論理構築力を養う。
3. 中間・期末テストやレポートでは、暗記ではなく考える問題を出題する。
4. ゼミナールでのレポート指導を通じて論理性を育成する。

方針3「メンバーと協力して遂行する力」を養成する。

1. ゼミナールでのグループワークにより協力して成し遂げる達成感を体験させる。

【成果・評価】

2022年度の授業評価結果を見ると、

「この授業の到達目標を理解し、達成することができたか」の項目では、どの授業でも「達成できた、少し達成できた」が8割～9割であった。

また、「新しい知識を得たり、理解が深まった」の項目で「とてもそう思う・そう思う」の割合が高い授業で85%～95%、低い授業でも70%程度であった。

【目標】

1. 短期的には、授業で論理的思考力を養えるようにレジメや課題を改訂して、期末レポートや期末テストで引き続き「考える問題」を工夫していく。
2. 長期的には、ゼミナールを担当して、ゼミ活動を活発化して、上記の理念を追求していく。